

長浜曳山博物館

長浜曳山まつり[※No.17 長浜曳山祭りへのハイパーリンクを挿入]は毎年4月に開催されますが、中心部に位置するこの博物館では、一年中精巧に装飾された曳山が展示されています。

曳山は移動式ステージで、それぞれ高さ約6~9メートル、重さ5~6トンです。祭りの期間中、約40人の人々が曳山を引き、街中を巡ります。各停車地で、曳山の中にいる子役が舞台に現れ、舞台後方に隠れている演奏家と共に、歌舞伎を演じます。

博物館には2つ、もしくはそれ以上のひき山が常に展示されています。舞台は、朱の漆や金箔、複雑な彫刻やきめ細かい金属細工といった華やかな装飾から、「移動美術館」という愛称が付けられています。公認の地域通訳ガイドが同行するゲストは、ガラス壁で区切られた(展示室の)中に足を踏み入れて間近で念入りに見るといった貴重な機会を得られます。

博物館には、18世紀から現在の形で開催されているまつりの歴史を紹介する展示もあります。入り口近くには曳山の舞台のレプリカがあり、舞台上で自身が役者になった姿を想像することができます。過去の歌舞伎公演の映像を2階で上映しており、2階にはまた、それぞれの曳山の後ろにかけられている、刺繍の施された貴重な幕のパネルもあります。